

令和6（2024）年度栃木県教育研究発表大会報告

令和6（2024）年度栃木県教育研究発表大会は、令和7（2025）年1月24日（金）・25日（土）の両日、栃木県総合教育センターを会場に、オンライン（Zoom 配信）により12の部会と教育講話を開催しました。また、今年度は特別企画として、2月8日（土）にメタバース体験を行いました。延べ1,200人を超える参加があり、盛会のうちに終了しました。以下、一部の部会の様子を紹介します。

「児童・生徒指導部会」では、「子どもの自信を育む教師のかかわり～不登校の未然防止の視点から考える～」をテーマに、当センター教育相談部による発表と、小学校と高等学校の実践発表がありました。児童と教師、児童同士のつながりをつくるための具体策や、生徒のSOSをキャッチし組織的に対応する工夫などの事例紹介があり、子どもが安心して学校生活を送れるための、教師の関わりについて考えるよい機会となりました。



【児童・生徒指導部会における実践発表の様子】

「STEAM教育部会」では、「課題発見・解決に必要な資質・能力を育成するSTEAM教育の推進」をテーマに、当事業担当の県教委事務局高校教育課や推進コーディネーターである株式会社Prima Pinguino様による説明、モデル校の実践発表がありました。STEAMの要素を取り入れた探究学習の定着化、持続可能な形で実践は、STEAM教育をさらに推進していく上での方策等について考えるよい機会となりました。



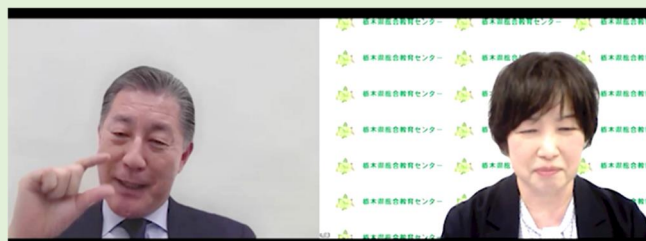
【STEAM教育部会における実践発表の様子】

「幼小連携部会」では、「園長・校長のリーダーシップがつなぐ架け橋期の子どもたち」をテーマに、当センター幼児教育部による説明と、幼小連携を楽しく行うために園長・校長が行ってきた具体的な実践や、幼小連携をさらに深めるための保育の充実や、小学校の意識改革についての発表がありました。実践的な幼小連携について考えるよい機会となりました。



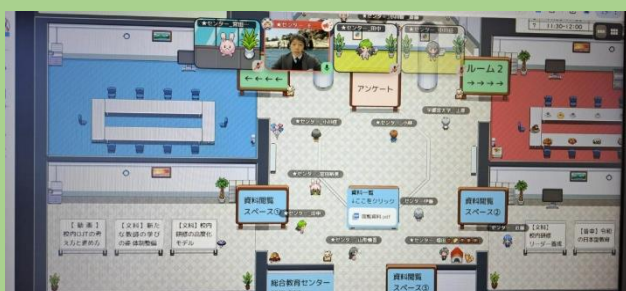
【幼小連携部会における実践発表の様子】

「教育講話」では、「主体的・対話的で深い学びを改めて考える～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～」をテーマに、文部科学省初等中等教育局主任視学官 田村 学 氏による御講話を行いました。数多くの実践事例が紹介され、目指すべき資質・能力の育成に向けて、子どもたちの主体的・対話的で学びの実現や、教師に求められていることについて、当センター指導主事との質疑も含めて、理解を深める契機となりました。



【田村学主任視学官による教育講話の様子】

特別企画として開催されたメタバース体験では、「校内研修どうつくる?」「探究について探究しよう」「プログラミングのひろば」の三つのテーマを設定し、各メタバース空間で、楽しく、深く、意見交換を行いました。参加者は、空間内でアバターを操作したり、資料を閲覧したり、時には集まって意見交換したりと通常とは違ったバーチャルな空間での学びを体験する機会となりました。



【メタバース体験の様子】

この他にも、「人権教育」、「生涯学習」、「特色ある取組」、「教育DX」、「学力向上」、「学校と大学の協働の実践研究」、「教科における探究（高）」、「特別支援教育」、「校内研修の充実」の各部会が開催されました。県外など遠方の方からも多くの参加があり、Zoomのチャット機能を活用して数多くの質問や感想等が寄せられました。「教育講話」については、約1か月オンデマンド配信期間を設けることで、「聞きたい部分を繰り返して聞くことができよかった」等の多くの肯定的な感想をいただきました。

皆様の御意見、御感想を参考にしながら、本発表大会が、明日を担う子どもたちのために、栃木の教育力の向上につながっていくよう、今後も努めて参りたいと思います。ありがとうございました。